

甲状腺外科草子 46

カメラ好きの徘徊

杉野 圭三

写真はスマホで撮る人が殆どの現在、デジカメは販売低迷、ましてやフィルムカメラなどは絶滅危惧種となりつつある。

写真を撮らないカメラ好き

「カメラ好き」が必ずしも「写真好き」とは限らない。世の中には、写真も撮らずにひたすらカメラを磨き、空シャッターを切って楽しんでいる輩がいる。小生も若干その傾向がある。

結婚して最初の子供が生まれた頃は、カメラ一台で写真を撮りまくり、充分満足していたが何時の間にか台数が増え、今ではカメラ保管庫に色々なカメラとレンズが溢れかえっている。

金属カメラの誘惑

現代のカメラはプラスチック製が主流だが、金属性カメラには何とも言えない妖気が漂い、「カメラ好き」を惹きつける。街のカメラ屋のショーウインドーに飾ってある、クラシックカメラの銀色や黒塗り物を見ると思わずフラフラと引き寄せられてしまう。かくして、カメラ好きの彷徨・徘徊が始まる。

徘徊者の行動ルート

「老人の『徘徊』の行動ルートには一定の法則がある」などと諸説あるが、カメラマニアも行く先々で本能的にカメラ屋のニオイを探し出してくる。中古カメラの程度は店によって様々で、購入してから欠陥に気付くことも度々ある。

長年、失敗を繰り返すと、学習能力も少しは向上し、必然的に信用のおける店を選択するようになる。かくして、行動ルートが徐々に確立される。

広島市内のカメラ屋

広島には全国的に有名なカメラ屋の密集地帯があった。知る人ぞ知る「的場地区」には、以前知る限り6軒の中古カメラ屋が軒を連ね、それぞれ個性的だった。

今は店の数も減ってきたが、その中でも『N堂』はカメラの種類が多く品質も値段相応に良好、店主も良心的なので、ライカ、ニコン、ペンタックス、コンタックス、キャノンなどの愛機の購入や大昔のカメラの修理でお世話になった。

東京のカメラ屋

東京で手に入らない機種はなく、特に銀座界限には多くの店がある。他の地域にも穴場が多い。その中でも JR 中野駅前の「Fカメラ」では新品・中古、付属品など多くの品が揃っている。有名店だけに平日から客の数も多く、人気品は右から左に捌けていくようだ。

穴場のカメラ屋

チェーン店でも意外な掘り出し物があり、「カメラのK」に行くとショーウインドーのチェックを欠かすことができない。往年の名機が思わぬ破格値で飾られていると、思わずダボハゼのように餌に食いついてしまう。

優柔不断な日々

「写真なんてデジカメでもバ○チョンでも差は無い」、「外科医は5秒で決断しなければならない」などと公言しながら、桜や紅葉の季節の撮影前日になると、カメラ（残念ながら今やデジカメ、トホホ!）・レンズの選択に迷い、「我ながら情けない」と優柔不断さを痛感している。

広島市医師会だより 512, 2008 を改訂。

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2022年10月13日